

みんなのスペース



ばなな(16)



小林新奈(9)



櫻井南美(6)



こばやし ゆつき ちゃん
(織笠保育園・5)

おおきくなったら保育園の先生になって、かわいい赤ちゃんと一緒にまごころもして遊びたい。



YAMUTYA(10)



リーしゃん(15)

生活発表会で楽しいひとときを

先日、楽しみにしていた織笠保育園の生活発表会に出掛けた。園庭に入ると園児たちのさわやかな歌声が聞こえてきた。すでに発表会は始まっており、わたしは少し遅れて会場に入った。

園児たちの表現力豊かなお遊戯などに、観客の方々は表情を緩めての拍手喝采。園児たちは周囲の人たちの心を引きつける力があるのだなと感じた。また、保護者による素晴らしい劇や保母さんたちの不思議なマジックショーを見て、楽しいひとときを過ごしてきました。ありがとうございました。

菊地サカエ (織笠・74)



こつじりき(6)



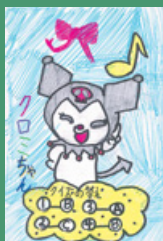
小辻飛輝(8)



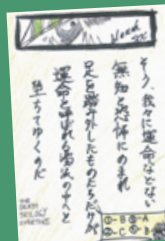
佐々木昂大(7)



ミュウ(8)



佐々木有加(8)



鎗紗雨(?)



木村るい(8)



横田杏奈(12)



歴女(?)



阿部行浩(5)



JUMP(?)



小栗海望(9)

山田中駅伝部に皆さんのご声援を

1月1日号の広報やまだに全国高校駅伝に出場した齊藤翔太君が掲載されていましたね。山田中女子駅伝部も12月19日に開催された全国中学校駅伝大会に出場して、開催地の山口県で走ってきました。町民の皆さんからの温かいご支援のおかげで、前回大会では48チーム中46位でしたが、今大会は37位と順位を上げることができました。また、10月31日に青森県で開催された東北中学校駅伝では3位、1月11日の県南地区中学校対抗駅伝では優勝という好成績を残すことができました。

本年も、先生のご指導の下、日々練習を続けている山田中駅伝部は昨年以上に活躍するものと期待しています。ぜひ、町民の皆さんにも頑張っている山田中駅伝部を知っていただき、ご声援いただければと思います。駅伝部で頑張っている女子生徒の母より

昨年末のお届けものに感謝

昨年12月29日の昼ころ、わたしが留守にしている間に新巻きザケが2本、自宅の玄関先に置いてありました。どなたのご厚意なのか分からないまま新年を迎え、いまだにお礼も伝えられずに恐縮しています。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。ぜひ、お心当たりの方はご一報ください。

中垣 修(船越・?)

広報クイズ

クイズ

三つの中から正しいものを選んで、応募してね。

- ①平成22年町成人式に出席した新成人の人数は？
 ④731人 ③371人 ②173人
- ②町ジュニア海外使節団が1月に訪問した国は？
 ④オランダ
 ③カナダ
 ②ブラジル
- ③2月17日に投票が行われるのは町○○委員会委員選挙？
 ④漁業 ③農業 ②学級
- ④今号の「1歳になりました」に登場している赤ちゃん12人のうち、女の子は何人？
 ④4人 ③5人 ②6人

【応募方法】 はがきに①クイズの答え②住所③氏名④年齢を明記の上、ご応募ください。全問正解者の中から抽選で10人に500円の図書カードをプレゼント。応募は一人1通です。

【応募先】 〒028-1392(住所記載不要) 山田町役場広報クイズ係
 【締め切り】 2月17日(当日消印有効)

☆前回の正解は①-B、②-C、③-A、④-Bでした。応募者数は38人で38人が正解。抽選の結果次の10人が当せんしました。
 八幡町=武藤直子(16) 飯岡=小辻飛輝(8)、櫻井南実(6) 船越=小栗波穂(7) 織笠=松山珠美(33) 大沢=古久保悠太郎(13)、福士梅子(63) 豊間根=川村拓海(10)、小林新奈(9) 大船渡市=佐々木美歌(9)

〈敬称略〉

山田よいとこ好きな町(26)

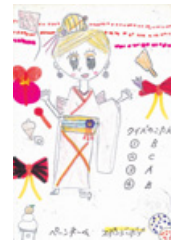
(前号より続き)

わたしが小学5、6年生のころの話。

屋休みになると校庭でみんなとダマ(ボール)投げをして遊んだ。女子とは校庭でも一緒に遊ばないんです。女子は石切りなどしていたっけ。投げたダマが講堂の屋根の軒先に引っかかり、わたしたちのダマ投げ遊びは終わった。そのダマは、産まれて4日目に母を亡くしたわたしを、男手で大切に育ててくれた2番目の兄さんにせがんでやっと買ってもらった自慢のものだった。

学校を卒業した後も、他国でふと白いダマのことを思い出し、啄木の「その昔小学校の^{まき}柱屋根にわが投げし^ま鞠いかにかなりけむ」という詩を思い出し、小学校時代を懐かしんだものだった。学校の跡地にこの啄木の碑があればいいなあとと思うこのごろである。(つづく)

ペンネーム・山田北州(山田・89)



ワカメ養殖組合誕生までの概要(3)

(前号より続き)

施設づくりも終わり、必要な物も整ったのでそれをどこに設置するのが効果的かといろいろ協議した結果、小谷島の海に設置することにした。早速、漁協に漁場利用の許可を取るために、作る、育てるといふ管理型漁業の必要性を説明しお願い申し上げたが、説明が悪かったのか一蹴されてしまった。すごく残念無念であったが、今思えば漁協役員としての認識不足なるものかと…

翌年、漁業権について同じような大事件?があった。われわれグループと同じくらいワカメ養殖に懸ける情熱が並々ならぬ人がいた。自ら切崎漁場へ養殖施設を設置し人為的にワカメの成長を立証した養殖の先駆者の一人である。そこでのワカメの成長ぶりは目を見張るほど見事なものであった。その海域は何にも利用されず、誰も見向きもしない海域であったのだが、漁業権の無断利用とかでこの計画も断念せざるを得なかったようである。(つづく)

山崎卓三(大浦・?)

新しき年の初めに降る雪は
寒くこそあれ豊のしるしなり

内館洋一(飯岡・?)

老人か菩薩と悪魔演じれば
家族の目線われを見つめる

大川ヒメ子(大沢・65)

海岸で身をさす風も氣にもせず
たこ糸引いて走る孫たち

大町テイ子(大沢・?)

花むしろ盲導犬に子犬じゃれ

菊地孝進(船越・88)

三が日妻にもやりたいお年玉

佐藤兼男(荒川・?)

2月号(ツウ)

2を英語でツウという。

平等がツウになる社会

温かさがツウになる福祉社会

命は一つしかない。

ツウになるといふ。

佐藤啓子(船越・31)